

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

飯島町長 唐澤 隆

市町村名 (市町村コード)	飯島町 (203840)
地域名 (地域内農業集落名)	本郷地区 (本郷一、本郷二、本郷三、本郷四、本郷五、本郷六)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年9月27日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

1. 農業者の年齢構成 ①20歳代から50歳代44名(24%) ②60歳代37名(20%) ③70歳代以上 103名(56%)
2. 地目区分 ①水田149ha(80%) ②畑33.8ha(18%) ③その他 3.5ha(2%)
3. 地 勢 ①緩傾斜が主体の中山間地帯で田の97%、②畑の50%が基盤整備されている。
4. 作目構成 ①水田では水稻、大麦、蕎麦等 ②畑ではきゅうり、リンゴ等、施設ではアルスト等が栽培されている。
5. 営農組織 ①一般社団法人の地区営農組合が ②二階に特定担い手法人の株式会社のが設立されている。
6. 課 題 農業者の高齢化が進んでおり、農村の維持と農地の保全・農業の維持継続が課題となっている。

(2) 地域における農業の将来の在り方

1. 水田農業中心の地域であり、今後も水田農業の効率化と生産性の高い転作により経営確立を進める。
2. ブロックローテーションを継続し、水管理と作業の効率化・栽培条件の改善により生産性の向上を進める。
3. 水稻の「自然共生栽培」を進めており、レス50栽培等、安全安心な農産物生産の拡大を進める。
4. 転作対応として、麦・そば・大豆による二毛作により農地の利用効率を高め経営確立を図る。
5. 転作作物として「新鉄砲ユリ」栽培を拡大し産地化を進める。さらに、きゅうり・白ネギ等野菜栽培を振興する。
6. 施設花きとしてアルストロメリアやカーネーション等の栽培が進められており、施設花き栽培を振興する。
7. 梨・リンゴ・栗を中心に果樹栽培が進められており、新たな作目を含め果樹栽培を振興する。
8. 六次産業化に向け女性が中心となり「甘藷栽培と干し芋づくり」を進めており、六次産業の振興を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	177 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	177 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

1. 既に農地転用等が決定している農用地以外の農用地については農業上の利用が行われる区域として保全・管理を実施していく。
2. 山林、原野に近い農用地については、粗放的管理を実施していく。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
1. 農地の出し手は、(一社)本郷地区営農組合」の土地利用調整に一任する。 2. (一社)本郷地区営農組合は、土地利用調整により経営体の農地の団地化を進める。 3. 認定農業者・(株)本郷農産等は、(一社)本郷地区営農組合」の土地利用調整に基づいて営農を行う。
(2)農地中間管理機構の活用方針
1. (一社)本郷地区営農組合の土地利用計画に基づく農地の貸借は、県農地中間管理機構を通して行う。
(3)基盤整備事業への取組方針
1. 島河原地区の土地基盤整備事業を行う。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
1. 農業地域で大消費地に近く新規就農希望者も多いので、サポート体制を整えて希望者を受入れ育成を図る。 2. (株)本郷農産(特定法人)は地域の重要な担い手であるので、「共益地代」を基本に地主が「草刈りや水管理」を分担し、地域全体で協力・支援し育成を進める。 3. 女性は重要な担い手であり、六次産業を中心に支援し育成を進める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
当面は、計画しない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①鳥獣害対策として防護柵を設置してあるが被害が発生しているので、捕獲檻や罠などの対策を継続する。
②有機・減農薬・減肥料対応として、水稻は農薬6成分以下による「自然共生栽培」の拡大を目指す。
③スマート農業は、ドローン、直進アシスト、ラジコン草刈り機等の導入を進めているが一層活用を進める。
⑦保全・管理等では、農業用道水路や農地等さらには農村機能を維持継承していくために、全農地所有者からなる「一般社団法人本郷地区営農組合」の役割が重要となるので、「共益地代」を基本に地主が「草刈り」や「水管理」などを分担し、地域の全農業者の参加と支援により農地や農村の保全・管理を進める。